

樋口正信^{1,*}, 佐藤雅俊²: 本州初記録のヌマカタウロコゴケ (カタウロコゴケ科)

¹国立科学博物館植物研究部

²帯広畜産大学環境農学研究部門

Masanobu HIGUCHI^{1,*} and Masatoshi SATO²: A New Record of *Mylia anomala* (Myliaceae) for Honshu, Japan

¹Department of Botany, National Museum of Nature and Science, 4-1-1, Amakubo, Tsukuba, 305-0005 JAPAN;

²Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine, 2-11, Nishi, Inada-cho, Obihiro, Hokkaido, 080-8555 JAPAN

*Corresponding author: higuchi@kahaku.go.jp

(Accepted on March 18, 2022)

Summary: *Mylia anomala* (Hook.) Gray (Myliaceae) is recorded from Ozegahara mire, Gunma Pref. This is the first record of the species in Honshu, Japan. Some distinguishing characteristics of the specimens of Honshu are compared with those of the species of Hokkaido, Japan.

ヌマカタウロコゴケ *Mylia anomala* (Hook.) Gray (カタウロコゴケ科) はミズゴケ湿原や泥炭地に生育し、ヨーロッパ、フェロー諸島、アイスランド、グリーンランド、北米、東アジア、シベリアに分布する。国内では橘ヒサ子氏により北海道大雪山沼の原で採集されたのが初めての記録である (Furuki and Higuchi 1985)。その後、大雪山の愛山溪～沼の平 (滝田・土蔵 1988)、道東の標津湿原 (樋口 2016)、西別湿原 (樋口 2022) から報告されており、また、証拠標本は挙げられていないが、知床半島羅臼湖周辺 (橘 2006) と霧多布湿原 (加藤 2019) の植生調査において本種が生育することが記録されている。これまで分布が知られていなかった本州、尾瀬ヶ原で本種を確認したので報告する。

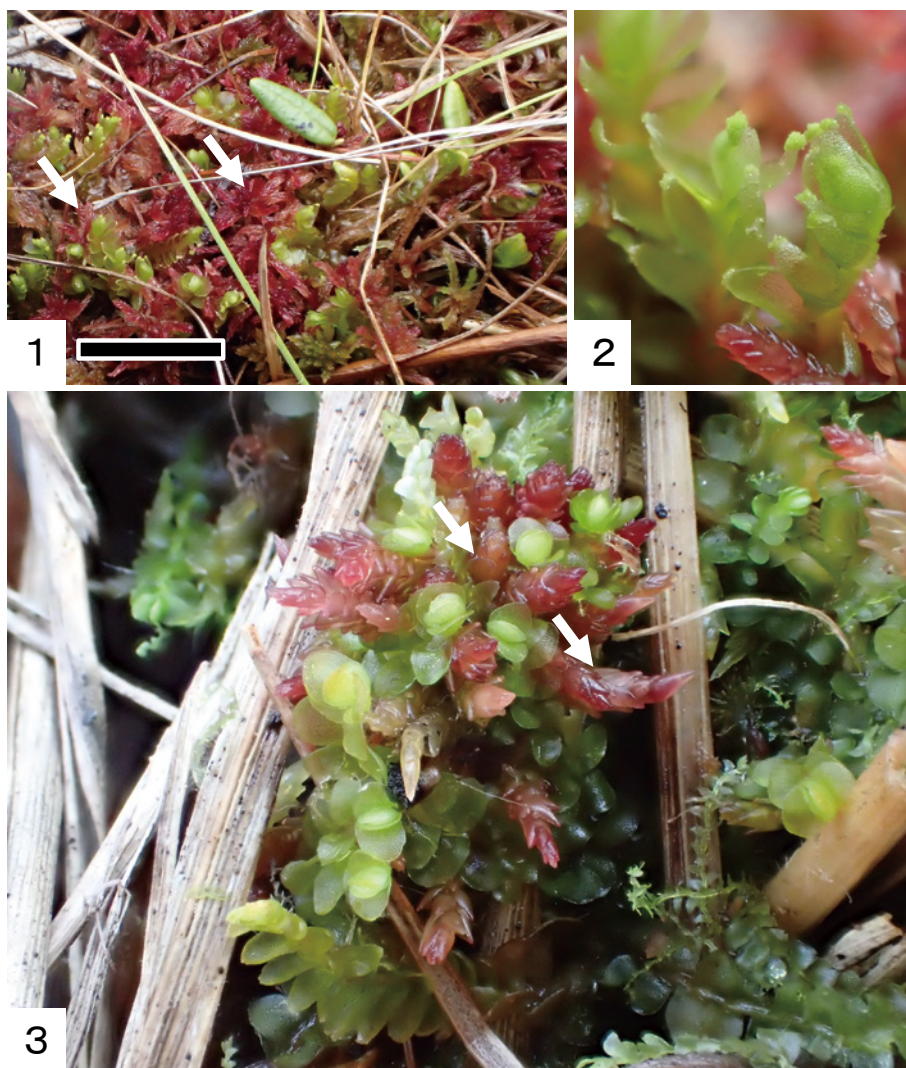
国内産のカタウロコゴケ属 4 種の中で、ヌマカタウロコゴケは他の 3 種、ナメリカタウロコゴケ *M. nuda* Inoue & Yang, カタウロコゴケ *M. taylorii* (Hook.) S.Gray, イボカタウロコゴケ *M. verrucosa* Lindb., から次の特徴で区別される。

(1) 葉細胞表面が平滑であること。(2) 円形の葉

と先端に無性芽をつける卵形～披針形の葉の二形の葉を持つこと (図 2, 4)。また、ヌマカタウロコゴケはミズゴケ類や泥炭上に生育するが、他の 3 種は国内では林床の倒木、腐植土、岩などに生育する点でも区別される。

2016 年に環境省のモニタリングサイト 1000 陸水域調査として、尾瀬ヶ原の中田代において 8 月に樋口が、10 月に樋口と佐藤が蘚苔類の調査を実施した。8 月の調査ではスギバミズゴケ *Sphagnum capillifolium* (Ehrh.) Hedw. の群落 (図 1, 2) に、10 月の調査ではムラサキミズゴケ *S. divinum* Flatberg & K.Hassel の群落 (図 3, 4) にヌマカタウロコゴケの生育が認められた。標津湿原ではチャミズゴケ *S. fuscum* (Schimp.) H.Klinggr., ムラサキミズゴケ, ウスベニミズゴケ *S. rubellum* Wilson, 西別湿原ではチャミズゴケの群落に生育していることが報告されている。以上から、ヌマカタウロコゴケはミズゴケ群落のハンモック (凸地) 上位から中位に出現するミズゴケ類上に生育する傾向があることが明らかになった。

Specimens of *Mylia anomala* examined: JAPAN. Honshu, Gunma Pref., Tone-gun, Katashina-mura, Ozegahara, Nakatashiro, 36°56'04.5"N, 139°13'53.3"E, 1408 m alt., on *Sphagnum capillifolium*, 17 August 2016, coll. Masanobu Higuchi, M. Higuchi 55064 (TNS); ibid., 36°55'57.8"N, 139°13'42.8"E, 1410 m alt., on *Sphagnum divinum*, 19 October 2016, coll. Masanobu Higuchi, M. Higuchi 55131 (TNS).



Figs. 1–3. *Mylia anomala*. 1. *Mylia anomala* growing on *Sphagnum capillifolium* which are shown by arrows. Scale in 1 cm. 2. Plants having ovate-lanceolate leaves with gemmae. 3. *Mylia anomala* growing on *Sphagnum divinum* which are shown by arrows. Plants have orbicular leaves without gemmae.

図1–3. ヌマカタウロコゴケ。1. スギバミズゴケ（矢印）の群落に生育するヌマカタウロコゴケ。スケールは1 cm。2. 先端に無性芽をつける卵形～披針形の葉を持つ植物体。3. ムラサキミズゴケ（矢印）の群落に生育するヌマカタウロコゴケ。植物体は先端に無性芽をつけない円形の葉を持つ。

最後に、現地での調査に便宜を図っていただいた日本国際湿地保全連合の加藤 将氏（現在、新潟大学教育学部）と横井謙一氏および文献探索に協力いただいた北海学園大学の佐藤 謙氏に感謝する。

摘要

国内において北海道の道央と道東の数ヶ所から記録されていたヌマカタウロコゴケ *Mylia anomala* (Hook.) Gray (カタウロコゴケ科) を群馬県尾瀬ヶ原で確認した。本種はミズゴケ湿原や泥炭地に生育することが知られているが、尾瀬ヶ原において

もミズゴケ類の上に生育していた。国内産のカタウロコゴケ属には本種の他、カタウロコゴケ、イボカタウロコゴケ、ナメリカタウロコゴケの3種があるが、ヌマカタウロコゴケは葉細胞表面が平滑であることと円形の葉と先端に無性芽をつける卵形～披針形の葉の二形の葉を持つことなどの特徴で区別される。

References 引用文献

- Furuki T. and Higuchi M. 1985. *Mylia anomala* (Hook.) S. F. Gray (*Hepaticae*) newly found in Japan. *Hikobia* **9**: 265–267.
- Higuchi M. 2016. Bryophytes of Shibetsu mire, Hokkaido, Japan. Education Board of Shibetsu town (ed.), Report of the research for the conservation of Shibetsu Mire, Hokkaido. pp. 145–163. Education Board of Shibetsu Town, Shibetsu (in Japanese). 樋口正信 2016. 標津湿原の蘚苔類. 標津町教育委員会 (編), 天然記念物標津湿原保全対策調査報告書. pp. 145–163. 標津町教育委員会, 標津.
- Higuchi M. 2022. Bryophytes of Nishibetsu Mire, Hokkaido, Japan. Education Board of Bekkai Town (ed.), Report of the research for the conservation of *Betula ovalifolia* at Nishibetsu Mire, Hokkaido. pp. 99–119. Education Board of Bekkai town, Bekkai (in Japanese). 樋口正信 2022. 西別湿原の蘚苔類. 別海町教育委員会 (編), 西別湿原ヤチカンバ群落地調査報告書. pp. 99–119. 別海町教育委員会, 別海.
- Kato Y. 2019. Vegetation of Kiritappu Mire (from the 2017 Monitoring 1000 research). *Vegetation Science News* no. 23: 38–44 (in Japanese). 加藤ゆき恵 2019. 霧多布湿原の植生 (2017年度モニ 1000 調査より). 植生情報 no. 23: 38–44.
- Tachibana H. 2006. Wetland vegetation of small mires near Lake Rausu, the Shiretoko Peninsula, Hokkaido, Japan. *Rep. Taisetsuzan Inst. Sci.*, Hokkaido Univ. **40**: 1–26 (in Japanese). 橘ヒサ子 2006. 知床半島羅臼湖周辺湿原の植生. 北海道教育大学大雪山教育研究施設研究報告 **40**: 1–26.
- Takita K. and Tokura K. 1988. Notes on the flora in Aizankei ~Numanodaira, National Park Daisetsuzan. *Sci. Rep. Asahikawa Mus.* **18**: 1–23 (in Japanese). 滝田謙讓, 土蔵寛二 1988. 大雪山国立公園愛山溪～沼の平のフロラについて. 市立旭川郷土博物館研究報告 **18**: 1–23.